

# ライブラリー Library Mate メイト 広報部通信 B

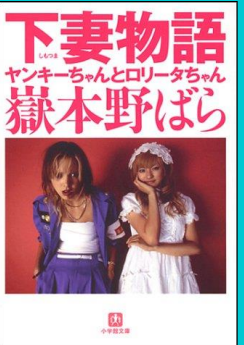
図書館をPRするための活動を行う「Library Mate」は、今年で2年目の活動となります。今回は「私のおすすめ本」をテーマにして、メンバーが自由に本の紹介をします。

## 『下妻物語』

嶽本野ばら (小学館文庫)

**見** た目も性格も正反対なロリータ少女桃子と、時代遅れなヤンキー、イチコ。そんな2人は田んぼに囲まれたド田舎、茨城県下妻で出会います。一見仲良くなつてなれなさそうで言い争いばかりの彼女達ですが少しずつ友情が芽生え始め…読めば分かる！ 思いつき笑わせられたかと思えばウルツと泣ける場面もある、そんな2人の関係は私の永遠の憧れです。「さすが野ばら様！」と言いたくなる文章も何度読み返しても素晴らしい！ としか言えません。ロリータちゃん達の永遠のバイブルです！

表現文化学科3年 S.H



## 『坊っちゃん』

夏目漱石 (角川文庫)

**親** 「譲りの無鉄砲で小供の時から損ばかりしている」。かの有名な名文から始まる私のオススメは、国語でお馴染み夏目漱石の代表作『坊っちゃん』である。漱石没後百年を迎えた現在も映像化がなされる色褪せないユーモアは、読了した者を魅了して止まない。しかし、だからといってこの作品を繰り返して読んではいけない。卓越したユーモアに毒されて、私のように「漱石がぶれの文体」で紹介文を書く羽目になってしまう。全く、これ程恐ろしい現象はほかに無いのである。

人間心理学科3年 カシオノエボツ



## 『毒草を食べてみた』

植松 黎 (文春新書)

**毒** 草を食べてしまった人たちを題材にした44のエッセイ。少しドキッとするタイトルですが著者自身が実際に食した毒草は3つだけですのでご安心？を。一見アングラな印象もありますが中身はいたって真面目に、真摯に、小気味よく、毒草に纏わるエピソードが綴られています。——ケシほど卑しい目的によって作りかえられた植物もない(本文抜粋)——。毒草との関わりを通して人間の業の深さもちょっぴり感じる本です。

健康栄養学科4年 K.T



## 『三匹のおっさん』

有川 浩 (新潮文庫)

**夕** イトル通り、三人のおっさんを軸に展開される事件解決物語だ。しかし、それだけではない、おっさんの視点ならではの考え方が作者によって表現されている。それによって、普段とは違う視点を追体験でき、共感すること間違いなし。また、詐欺と言う現代の問題をテーマにしながらもコミカルである。現実的かつ喜劇的に展開されるこの作品は調和している。

表現文化学科3年 佐藤浩貴



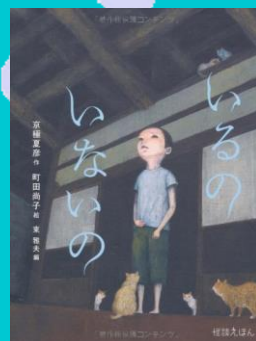
## 『いるのいないの』

京極夏彦 (岩崎書店)

「いないと思えばいないよ… じゃあ、いると思ったら…？」

子どもの頃なんでも怖いものに見えませんでしたか？ 今までの怖い絵本とは別世界。大人も恐怖する怪談絵本シリーズ第3弾『いるのいないの』！夏の暑い季節にぴったりのひんやりする怖い絵本はいかかでしょうか…

人間心理学科1年 あゆみ



### 図書館フェスタ

今年も図書館フェスタをやります！

1日目はライブラリーメイトによる本や作家の特集展示＆図書館をぐるーっと一周できるクイズラリー(景品あり！)。そして人間心理学科の学生による心理コーナーも設置いたします！

2日目は懐かし絵本の読み聞かせ。そして本を読む人にはいくつあっても足りない「葉作り」を開催いたします！ぜひひ足を運んで図書館の新しい魅力を発見しましょう♪

### 特設コーナー 怪談特集

7月から8月にかけて怪談特集を行います！ 絵本から小説まで、ライブラリーメイトが厳選した怖〜い話を集めました！ 幽霊、妖怪、怪奇現象 etc… 時代も平安から現代まで幅広く揃えていますのでお気に入りの一冊が見つかるはずです！ 夏にぴったりの本を読んで涼しくなりませんか？